

高大連携キャリア教育プログラム・高大連携教育フォーラム

<事業概要>

高大連携事業は、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会、京都商工会議所及び当財団の連携によって「京都高大連携研究協議会」を組織し、2003年度から取り組んでいる。

現在、国の「高大接続システム改革」の展開がなされていることから、その動向を十分に踏まえながら、各種事業の展開を検討することとする。

<主な活動項目>

◆高大連携教育フォーラム

◆高大連携フューチャーセッション → 高大社連携フューチャーセッション（2018年度名称変更）

※DI (Diffusion Index)値とは

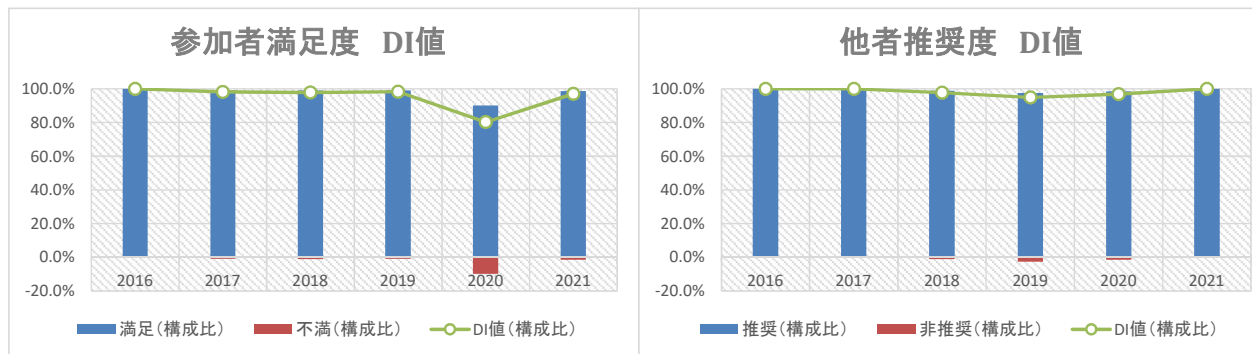
「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)／減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答が良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>

◆高大連携教育フォーラム

<事業概要>

高校・大学間の連携・接続に関する国内動向の情報共有や、京都における取り組みの情報発信を目的として開催しています。



<参加者の声>

○現在、高校現場で探究評価型の入試の指導を行っているため、大学の側でどのようなねらいを持っておられるのか、また入試改革全体の方向性について知ることができました。

○今後さらなる高大連携が求められる中で、その先進的な事例に触れることができたため。また、今後日本の教育の大きな転換点になりうる「探究な学び」の導入について、幾つか貴重な観点が得られたため。

○今まで中学校との連携・連続性を重視してきたが、大学進学率が高まる中、高大連携において、何を重視すべきなのか、なぜ「探究」が必要なのかがよく理解できた。

○事例報告の質問等はブレイクアウトよりチャットでの質問でもよかったかと思います。

○12時から17時と長丁場なのに休憩時間が5分程度は短かったように思います。

参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
満足(名)	101	110	189	120	64	68
不満(名)	0	1	2	1	7	1
満足(構成比)	100.0%	99.1%	99.0%	99.2%	90.1%	98.6%
不満(構成比)	0.0%	-0.9%	-1.0%	-0.8%	-9.9%	-1.4%
DI値(構成比)	100.0%	98.2%	97.9%	98.3%	80.3%	97.1%
参加者数(名)	153	210	254	223	227	144

他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
推奨(名)	90	118	177	114	65	70
非推奨(名)	0	0	2	3	1	0
推奨(構成比)	100.0%	100.0%	98.9%	97.4%	98.5%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%	-1.1%	-2.6%	-1.5%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	97.8%	94.9%	97.0%	100.0%
参加者数(名)	153	210	254	223	227	144

<参加者の声を受けて改善を図った点>

○中央教育審議会の関係分科会及びWGにおける「高大接続改革」の議論を踏まえ、高等学校と大学の双方の視点をすり合わせながらテーマ及び企画内容を検討した。

○2020年度の実施状況及び参加者アンケート結果等を踏まえ、分科会構成について検討し、2021年度は「国語」「地歴・公民」「理科」と特別分科会「高大接続」を1日で開催。「高大大社連携キャリア教育」を別日で開催した。

○2021年度も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインでの開催となった。2020年度は参加費無料であったが2021年度は有料開催としたことで参加率が上昇した。引き続き高等学校、大学関係者の参加者を確保できるような工夫に努める。

【総括】

2021年度も引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンライン開催となり、全国から144名の方々に参加いただいた。

第1部では、①京都府内、②京都府外の高等学校、③大学の構成で事例報告3つを設けた。終了後の参加者アンケートには、好意的な感想が寄せられた。

一方、パネルディスカッションでは、「多様な観点からの高大接続の話は大変勉強になった。」といった意見が寄せられ、「満足」46.1%、「やや満足」31.6%、「どちらでもない」10.5%、「やや不満」1.3%と高い満足度の結果となった。

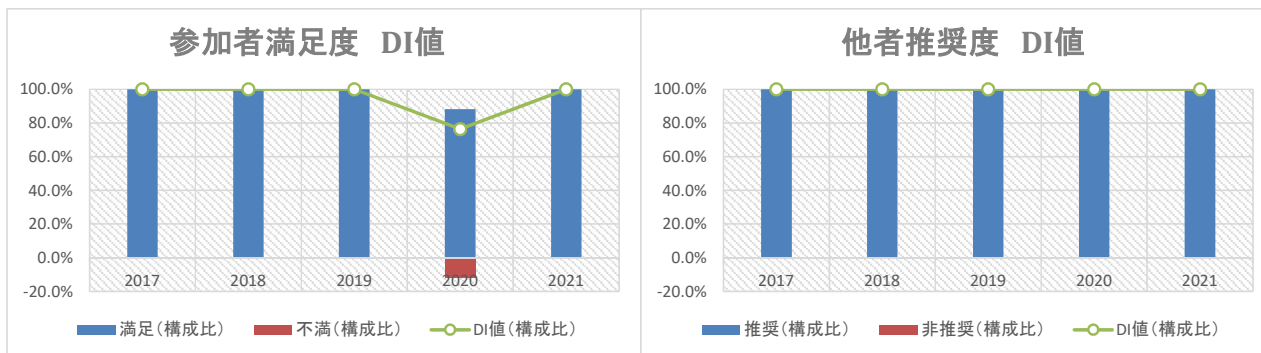
第2部の分科会について、終了後の参加者アンケートでの各分科会の満足度を問う設問では、分科会によりばらつきはあるものの、いずれも「満足」「やや満足」の回答が多数を占めた。

2022年度は、本フォーラムも20回目の節目を迎えることから、例年以上に充実した内容で開催することを検討する。また、本フォーラムのターゲット層である高等学校・大学関係者の参加者確保と、京都府内の高等学校・大学教職員の参加者数増加につながる工夫を検討する。

◆高大社連携フューチャーセッション

<事業概要>

高校生・大学生・社会人といった世代、学校間を越えて、テーマについて未来志向で対話することを通して、高校生・大学生のキャリア発達を促すことを目的としています。



<参加者の声>

- ゲストの方の話を質疑応答の形式等で開けてこれからのLGBTの問題について考えられました。
- 様々な年代、学校の人と関わることができて、自分の意見や考え方がより深まったから。
- トランス男性の実体験や性に対する考え方について沢山知ることができ、とても有意義でした。性ではなく、「人」として見ていくことの重要性を改めて感じました。
- 今回のように他のイベントがとり上げないような内容をテーマとしたフューチャーセッションにしてほしい。
- パーテーションがあることで声が十分に聞きとれなかった。

<参加者の声を受けて改善を図った点>

- 実施日の検討にあたっては、高校側行事等の状況把握に努めた。
- 他事業部との連携や実施時期の工夫により、大学生の参加促進を図った。
- 2020年度に引き続き、京都府内の高校生・大学生を対象に実行委員を募り、実行委員が企画段階から参画し、当日の企画検討、広報及び当日の運営などを担う形式を採った。今後もこの形式を採用する場合は、成果、課題を踏まえて、より充実した企画となるよう努める。
- 2020年度はオンライン開催であったが、2021年度はハイブリッド開催とした。

【総括】

2020年度から、高校生・大学生が自らの発想をもとに、より主体的・対話的に取り組む力をつけられるよう、京都府内の高校生・大学生を対象に実行委員を募った。その実行委員が主体となって企画段階から参画し、当日のテーマやプログラム構成等の企画検討、広報物の作成及び当日の運営などを担いながら、開催当日の企画を作り上げた。

終了後のアンケート結果では、「様々な年代、学校の人と関わることができて、自分の意見や考え方がより深まった」などの感想が寄せられており、参加者は様々な学びや気づきを得ることができたと感じられる。

また、実行委員からのアンケート結果では、「自分たちで1から企画を考え、実際に開催させて頂けてとても楽しかった」などの感想があった。

一方で、実行委員以外の当日参加者の十分な確保に至らなかったことは課題である。

また、今後はキャリア発達につながる社会人との対話の場が設けられるよう、京都商工会議所等との協力も視野に入れ、より効果的な事業展開ができるよう検討を進める。

なお、2022年度も実行委員会形式とする場合、今回の成果と課題を踏まえ、高校生・大学生の活動範囲、時期等に配慮しつつ、より充実した対話・活動の場となるよう工夫を重ねる。

参加者満足度

	2017	2018	2019	2020	2021
満足(名)	44	39	78	15	26
不満(名)	0	0	0	2	0
満足(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	88.2%	100.0%
不満(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%	-11.8%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	76.5%	100.0%
参加者数(名)	45	39	80	37	26

他者推奨度

	2017	2018	2019	2020	2021
推奨(名)	44	37	72	13	25
非推奨(名)	0	0	0	0	0
推奨(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	45	39	80	37	26